

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

知事、深刻な課題にまともに答えず！ 会派の代表質問で

大震災発生

9月6日早朝、北海道胆振東部において、かつて経験したことのない震度7の地震が発生。同時に、北海道全域が停電となるブラックアウト状態となりました。ちょうど道議会は、9月11日から開会され、14日からは代表質問が予定されていましたが、震災対応などもあり、会期を5日間延長し、9月20日から代表質問が再開されました。



会派を代表して知事に質問を行う(9月20日)

民主・道民連合議員会の幹事長を務める北口道議は、今回の定例会の代表質問者として登壇、震災対応や人口減少問題をはじめとする知事の政治姿勢、交通・医療・雇用対策などの当面の課題、第一次産業振興、教育課題など、1回目の質問では52項目、再質問では26項目、再々質問では7項目について、知事の考えを質しました。

不誠実な答弁

高橋知事の答弁は、道職員が書いた原稿をそのまま読み、知事としての思いや熱意が感じられない、不誠実

な答弁に終始しました。

遅い人口減認識

特に高橋知事の在任中、15年間で北海道の人口は33万人減少したことに對しては、「本道が直面する状況に危機意識を持ち、少子化対策や人口流出への対応、働く場の確保など、重点戦略プロジェクトを中心とした施策を展開する」との具体性に欠けた答弁でした。

特に問題なのは、知事が人口減少の認識を持ったのは、政府内に地方創生本部が立ち上がった2014年からであり、北海道の人口減少は1997年をピークに減少に転じ、全国よりも10年



自治労の岸まさこ特別執行委員(中央)と勝部賢志副議長(右)(9月27日)

早いペースで進んでおり、知事に就任したのが2003年であることから、私としては、もっと早くからその認識を持つべきであったと指摘したところです。

道の責任も追求

今回の震災で、全域停電(ブラックアウト)しました。その責任について知事は、「電力事業者としての北電の責任は極めて重い」との認識を示しましたが、私は「エネルギー政策を司る国と同時に、道の責任もある」と再質問し、「企業局による発電事業や、エネルギーの地産地消の促進に取り組む」との答弁を得ました。

第3回定例道議会報告(9月11日~10月10日)

第3回定例道議会は、9月11日(火)に開会、地震等の災害対応等の補正予算及び「平成30年北海道胆振東部地震からの復旧・復興に係る特別な財政措置を求め

る意見書」や「日米地位協定のあるべき姿への見直しを求める意見書」などを可決し、10月10日(水)に閉会しました。

震災優先の議会議論

知事任期最終年度の第3回定例会は、半年後に迫る統一地方選挙に向けて、知事

の道政運営の検証等が議論の中心となるのが通例ですが、開会直前の9月6日に胆振東部地震が発生、さらにその直前には台風21号等の災害が相次ぎ、こうした災害への対応が最優先の議会となりました。

北海道胆振東部地震は、本道の観測史上最大の震度を記録する巨大地震で、胆振管内厚真町をはじめ全道で41人もの方が犠牲になるなど、大きな被害となりました。また北海道電力は、苫厚真火発の被災を原因に全道が停電するブラックアウトが引き起こされました。巨大地震産業活動のあらゆる分野に深刻な影響が生まれました。

わが党派としては、代表質問や一般質問などを通じ、当面の対策や中長期的な対応等について、地域の実態を踏まえた提案も含めた質疑を展開しました。深刻な被災からの復旧・復興、ブラックアウトの検証も含めた道内での電力・エネルギーのあり方、被災状況を踏まえた公共設備・施設の強化策等の議論を今後も継続していかなければなりません。

はつきりしない身の振り方

知事は、来春以降の自身の動向をあいまいにしたままです。残す任期は半年となりましたが、人口減少対

策等の公約の達成状況は極めて不十分であり、JR北海道の抜本的な路線見直し等の重要課題への対応も鈍いままで。貿易交渉や一次産業分野での規制緩和、空港民営化等については政府の意向を全面的に受け入れるような対応ぶりで終始し、反発が強いカシノについても政府の方針を丸呑みするような対応になっていきます。私たちは、道民の安全・安心の立場に基づいて質疑を展開しましたが、知事はこの段階に至っても、どの課題についても、あいまいな姿勢の答弁で終始しています。

道政は課題山積

こうした中で、JR北海道の路線問題は切迫し、国際貿易交渉でもかねて心配されていたアメリカとの二国間交渉を安倍政権が開始するなど、山積する課題は、いずれも解決できないどころか、ますます深刻さが加わるばかりです。

採択された意見書

▼平成30年北海道胆振東部地震に関する意見書▼平成30年北海道胆振東部地震からの復旧・復興に係る特別な財源措置を求める意見書▼平成30年北海道胆振東部地震災害関連義援金を差し押さえ禁止とする措置等を求める意見書▼寡婦(夫)控除を全てのひとりの親家庭に適用することを求める意見書▼日米地位協定のあるべき姿への見直しを求める意見書

補正予算は、会期冒頭に7月の大雨等の災害復旧費、道投資単独事業費等の一般会計214億2300万円、特別会計1億6800万円が提案され、地震等の発生を受けての災害復旧費等の一般会計495億9300万円、特別会計1100万円が9月28日に追加提案されました。

これによって、30年度道予算は、一般会計2兆8250億円、特別会計1兆188億円の合計3兆9438億円となりました。



会派として阿部副知事に早期の震災対応やブラックアウト対策を緊急要請(9月19日)

写真で振り返る北口道議の活動記録(7月~9月)



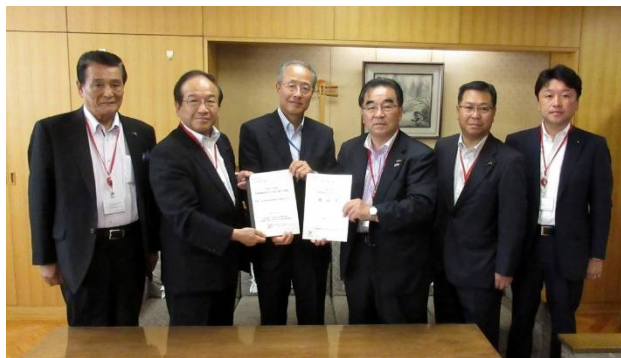
牧野市長と企業局に水力発電所を要請(7月3日)



上富良野町戦没者追悼式に参列(7月1日)



東栄地区での平和紙芝居(8月21日)



林活議連役員として中央要請(7月24日)



幌加内町の新そば祭りに参加(9月1日)



技能者の集い・産業フェスタ前夜祭(8月25日)



きたごりんファームでの稲刈り作業(9月22日)



JR北海道労組による旅のプレゼント(9月2日)



←当麻地区道政報告会(7月16日)



→アジア交流少年サッカー土別大会(7月7日)

北口ゆうこう奮闘日記

<http://y-kiaguuchinet/>

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(7月～9月分)

◆7月20日【士別市甜菜振興会】▼江別市の北海道消防学



見事準優勝に輝いた美瑛消防団

校で開催された北海道消防操法訓練大会に参加してきた▼今年の操法訓練大会は、ポンプ車の部で行われ、1チーム5名のうち、指揮者の指示に基づき、1番員と2番員が放水し、3番員が伝達、4番員はポンプ車を操作するという役割分担の中で、正確さとスピードを

求められる競技である▼上川管内からは、美瑛消防団が出場、1番手という出場順であったが、13チーム中見事準優勝に輝く素晴らしい演技を披露してくれた。なお、優勝した美幌消防団は北海道を代表し、全国大会に出場することとなっている。

◆7月31日【献血奉仕当番】

▼今日で7月も終わりでありますが、連日の猛暑にぐったりという感じである▼そんな今日は、士別ライオンズクラブの献血奉仕当番に参加。その後は、事務所書類整理と打ち合わせ。さらには「ゆうこう便り夏号」を完成させ、発注作業を行



献血奉仕当番に参加

った。

◆8月20日【戦争をさせない士別市民集会】▼戦争をさせ



戦争をさせない士別市民集会

ない集会は、仏教会や天理教、キリスト教などの宗教団体のほか、連合、農民連盟、9条の会、さらに今年からは遺族会も加わって実行委員会を組織しての開催である▼冒頭、神田実行委員長の挨拶のあと、広島を訪問した南小6年の春名くんから広島体験報告を受け、メインは長年平和紙芝居を行いながら平和を訴え続けている三重県議会議員の村進一氏から「二度と戦争はしません!」という紙芝居を上演していただいたところだ。最後は、戦没者名

簿を紹介し、戦争をさせない集会宣言を採択、全員で「戦争をさせないコール」を三唱し、この集会を終えたところだ。

◆9月24日【コラッセ夏学校】



士別コラッセ夏学校開校式

▼福島県川内村の子どもたちをお迎えし、今年で8回目となる「士別にコラッセ夏学校」が開校▼今年は、川内村から4・5年生16名、引率者5名の合計16名が来士され、通算では200名を超える皆さんが川内村からお越しになり、士別での体験を楽しまれている▼過去7回は、夏休み中に開催されていたが、今年からは学校行事として行われ、明日には士別小学校の子ども

たちと交流授業を受けることになっている。また、体験農園としてイモ掘り体験なども予定されており、記憶に残る夏学校になればと思っています。

【つづき】

▼9月30日、沖縄知事選挙が行われた。結果は、志半ばで亡くなられた翁長雄志前知事の後継指名を受けた玉城デニー氏が、与党からの支持をうけた候補を8万票以上の大差をつけての勝利である▼沖縄県民は、「新たな基地はいらない」ことを明確に意思表示したのである。政府は、沖縄県民の揺るぎない民意を尊重し、新基地建設を即刻断念すべきだ▼私は、安倍政権になり、民主主義と地方自治が揺らいでいると指摘してきた。日本が、民主主義国家と標榜するのであれば、「自分たちのことは自分で決める」という基本的な地方自治の一步を大事にしなければならず、沖縄県民の意思を尊重するのはその第一歩である▼戦後、米軍が銃剣とブルドーザーで土地を強制接収し、基地を建設した歴史をけっして繰り返してはならない。(ゆうこう)